

新・松永安左工門記念館(仮称) 建設基本構想



令和5（2023）年7月1日

吉岐市教育委員会

はじめに

壱岐島は有史以来、日本と大陸との交流の架け橋として、また交易拠点として発展した歴史を持っている。『魏志倭人伝』では「一大（支）国」と記され、弥生時代当時の壱岐島の様子を知ることができる。拠点であったがゆえに、幾度となく大陸から侵攻を受けたり、豊臣秀吉による朝鮮出兵の中継地になったりもした。

一方、長く活発な交流が行われてきたことから、中国や朝鮮半島、遠くはベトナム、西アジア、国内においては沖縄（琉球）から西日本産の遺物が数多く見つかっている。平和な時代であった近世（松浦藩政）においては、九州本土との交易が活発に行われた。

江戸後期、壱岐八浦の一つであった印通寺浦で交易を行っていた松永家に一人の風雲児が誕生した。その名を松永安十郎といい、兄である家主の勢右工門からむしろ一枚だけで分家し、ただひたすら商売に勤しみ、一代で二百石の回漕船を手に入れるほどの成功者になった。のちに安十郎から安左工門（初代：松永安左工門）と名を改めている。

その後ろ姿を見て育ったのが、のちに“電力王”や“電力の鬼”と呼ばれた「三代目の松永安左工門」である。幼名を亀之助といい、初代安左工門の孫にあたる。気性の激しさや一度決めたらやり抜くといった精神は、主に祖父から受け継いだものと思われるが、玄界灘の荒波にもまれる壱岐島で生き抜く中で育まれたものと言える。

郷土が生んだ偉人、松永安左工門の功績を後世に語り継ぐ「“電力の鬼”松永安左工門記念館」を昭和46年、彼の生家が残る壱岐市石田町印通寺浦の現在地に開館した。

開館以来島内外の多くの方が来館されている。市内の小学生は社会科の学習で必ずこの記念館を訪れ松永安左工門の偉大さを学んでいる。

開館後50年の歳月で建物の劣化も進んでいる。また平成31年に「松永安左工門記念館運営検討委員会」から壱岐市長に対し、『松永安左工門記念館のあり方に関する提言書』が提出された。松永安左工門に対する市民の熱い想いは、価値ある資料を効果的に展示し、来館者の研修にふさわしい、新たな記念館として生まれ変わることを求めている。

今回、郷土が生んだ偉人にふさわしい記念館建設のため、新・松永安左工門記念館（仮称）建設基本構想を策定した。市民の皆様をはじめ、松永安左工門ゆかりの方々のご協力、ご指導を得ながら、さらに具体的な整備計画を検討する。

令和5年7月1日

壱岐市教育委員会

目 次

<u>1 基本構想策定の背景</u>	• • • • •	2
(1) 現在の記念館とそれを取りまく状況		
(2) 現在の課題		
(3) 新たな記念館建設の必要性		
<u>2 新たな記念館建設に向けての基本的な考え方</u>	• • • • •	4
(1) 基本理念		
(2) 記念館の使命		
(3) 新たな記念館建設の方向性		
(4) 事業費		
<u>3 建設場所と配置</u>	• • • • •	5
(1) 建設場所		
(2) 配置		
<u>4 機能と活動</u>	• • • • •	7
(1) 展示・企画		
(2) 調査・研究		
(3) 資料収集・保存		
(4) 交流・支援		
(5) その他		
<u>5 管理運営</u>	• • • • •	8

1 基本構想策定の背景

(1) 現在の記念館とそれを取りまく状況

- ① “電力の鬼”松永安左工門記念館（以下、「記念館」という。）は、壱岐が生んだ不世出の偉人である松永安左工門（1875-1971）の人生や功績を後世に語り継ぐために、昭和46（1971）年8月1日に開館し、以来50年を経過した。その間に軽鉄骨コンクリートの建物は老朽化が進み、情報発信やユニバーサルデザインの欠如等、現在のニーズに十分に応え切れていない。
- ② 平成31年3月、「松永記念館運営検討委員会」から壱岐市長に「松永記念館のあり方に関する提言書」（以下、「提言書」という。）が提出された。提言は『壱岐が生んだ日本の宝「松永安左工門」を後世に語り継ぐこと』を柱とし、偉大な人物としてふさわしい新しい記念館をぜひ整備してほしいという熱い思いが込められていた。
- ③ 令和3年6月8日に開催した「壱岐市文化財展示施設再編計画検討委員会」において、記念館は拡充すべきとの方針が確認されている。
- ④ 令和7年に松永安左工門生誕150年を迎えることから、注目度はさらに大きくなると思われる。

(2) 現在の課題

- ① 時代背景やテーマに沿った展示及び、解説等の連結性が十分でないの見直しを図ること。
- ② 展示品の劣化が見られるので、整備をして適切な環境で保管と展示に努めること。
- ③ 展示品のすべてが本物で貴重な品が所蔵されているので、展示室をはじめ防犯体制を整備すること。
- ④ 生家については新しい資料等も出ているので、展示等を工夫すること。
- ⑤ 老朽化している建物のリニューアルや路面電車等の再整備及び、その活用を図ること。
- ⑥ 記念館前の案内板が小さく、目立たないので素通りされる。思い切った対策をとること。
- ⑦ 記念館のホームページを設け、全国に向けて情報発信を図ること。
- ⑧ 管理運営に見合う適切な入館料を設定すること。
- ⑨ 管理人の複数体制と後継者育成に努め、来館者への対応を充実させること。
- ⑩ 松永安左工門生誕150年を令和7年度に迎えるので、十分考慮しておくこと。

(3) 新たな記念館建設の必要性

- ① 現在の記念館の展示室や見学経路等は、昭和46年の開館からほとんど変わっておらず、手狭な印象を与えている。
- ② 建物は平成17年度にアスベスト除去工事、平成28年度に耐震診断を実施した。耐震診断の結果は良好とされたが、法定耐用年数を超えていること、外壁にクラックが目立っていること、電気設備等も劣化が進んでいること等、不特定者の利用に供する施設としては適切さを欠いている。
- ③ これまで部分的や一時的な修理を必要に応じてしてきたが、前述の課題を克服していないので、今回は新たな建設整備が不可欠である。



現在の展示室



2 新たな記念館建設に向けての基本的な考え方

(1) 基本理念

松永安左工門の人物像とその功績を島内外へ広く情報発信する拠点施設とする。

(2) 記念館の使命

- ① 松永安左工門の生き様や人物像、その功績を正しく伝えること。
- ② 松永安左工門に関する品を確実に保存し、展示活用すること。
- ③ 松永安左工門を吉岐市が生んだ偉人として活用し、地域の活力に繋げること。
- ④ 吉岐市の魅力を伝えること。

(3) 新たな記念館建設の方向性

- ① 松永安左工門の生き様や人物像を正しく伝え、時代背景や交流のあった人物を分かりやすく紹介する。
- ② 誰もが親しみをもち、理解しやすい展示と説明を工夫する。
- ③ 松永安左工門ゆかりの地や施設等と連携し、情報の共有化を図り可能な限り展示物の充実を目指す。
- ④ ホームページ等を整備し、全国に向けて情報発信を行うことで島内外からの多くの来館を促す。
- ⑤ 学校教育と連携し、吉岐の子ども全てが記念館を訪れ、郷土の偉人について学び、郷土愛の醸成に繋がる展示説明をする。
- ⑥ ユニバーサルデザインを取り入れ、来場者に対して開かれた、利用しやすい施設とする。
- ⑦ 定期イベントの開催等を通じ、何度も足を運びたくなる運営を工夫する。

(4) 事業費

- ① 事業費は、本構想に基づき必要となる機能や規模などを十分精査し、さまざまな段階での経費節減を常に意識しながら算定する。
- ② 建設に向けては合理的かつコンパクトな施設計画による低減化を行い、運営については効果的かつ満足度の高い運営と、エネルギーやランニングコストの低減化とのバランスを図りつつ計画を策定する。
- ③ 財源については、企業版ふるさと納税やクラウドファンディング制度の活用をはじめ、国の財政措置（デジタル田園都市国家構想交付金等）などの積極的活用を行い、可能な限り市負担を圧縮する。

3 建設場所と配置

(1) 建設場所

- ① 松永安左工門の生家が今も残る現在の記念館と旧ふるさと資料館敷地を合わせて1,638㎡の場所で整備する。
- ② 記念館と旧ふるさと資料館用地を最大限有効活用する。



(2) 配置

- ① 建物本体の延床面積は十分確保し、入館者の動線や利便性、安全性を配慮し、災害等の危機管理に万全を期す。
- ② 松永安左工門の生家は長崎県「まちづくり景観資産」登録文化財になっているので適切な維持管理に努める。
- ③ 周囲の景観との調和を図る。



閉館したふるさと資料館

配置イメージ図



4 機能と活動

(1) 展示・企画

- ① 松永安左工門の生涯や功績を改めて整理し、その時代背景や交流人物等分かりやすい展示に努める。
- ② シアタールームや情報端末等を整備し、団体から個人まで対応可能な設備とする。
- ③ ユニバーサルデザインを取り入れ、誰もが分かりやすく理解できる展示内容にする。
- ④ 定期的なイベントや企画展を開催する。

(2) 調査・研究

- ① 松永安左工門が生きた時代を検証し、吉岐市の歴史研究に寄与する。
- ② 松永安左工門に関わる研究を保証し、新たな成果を創出する。

(3) 資料収集・保存

- ① 松永安左工門に関する資料を収集し、公開に努める。
- ② 資料は温湿度管理を徹底し、適切な保存に努める。

(4) 交流・支援

- ① 松永安左工門ゆかりの地（神奈川県小田原市や埼玉県新座市など）や施設（福岡市美術館ほか）と連携し、交流を深める。
- ② 教育機関と連携し、来館を通じて松永安左工門を吉岐の偉人として伝える教育活動に寄与する。
- ③ 記念館での活動を通して、まちづくりや企業連携を積極的に行う。

(5) その他

- ① 生家や電車の積極的利用ができるよう整備する。
- ② 長時間の入館に対応できるよう、飲食スペースを設ける。
- ③ 団体での利用や研修の場としての講座室及びライブラリーを設ける。



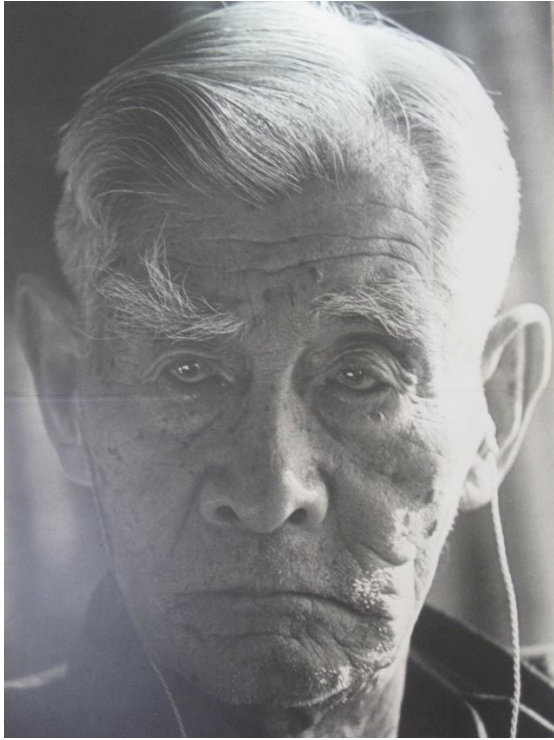
生家



電車

5 管理運営

- (1) 建設整備は吉岐市で行い、管理運営は指定管理者が行う。
- (2) 管理運営は採算性、長期的な施設維持等を検討して柔軟に対応する。
- (3) 吉岐市は管理運営に対し、協働して施設の維持管理や集客を行う。



参考文献 松坂直美 1990 『わが人生は闘争なり -松永安左工門の世界-』 教文出版
松永安左工門「私の履歴書」 1982 『松永安左工門著作集』第1巻 五月書房